

## 平成27年度 授業改善推進プラン

### 【学年 1 年生】【教科 美術】【授業者 小林】

#### 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

- ・基礎学力の確かな定着と知識、技能を確実に習得し、思考力・判断力・表現力の育成を中心に、学力の向上を図る。
- ・ねらいを明確にした分かりやすい授業、学ぶ楽しさや分かる喜びをもたせる授業を目指す。

#### 2 児童・生徒の現状

##### ◆その他の資料を活用した分析

活用した資料名	分析結果
「作品及び制作過程」	<ul style="list-style-type: none"><li>・小学校の造形遊びの流れから制作活動を楽しもうという意欲があり、自由な発想で制作を進めることができる。また、技法を覚えて上手に描けるようになりたいという意識も高い。</li><li>・用具の基本的な使い方の基礎が身に付いていない生徒が多く、友達に聞いて取り組む機会が多いため、制作に時間がかかってしまう傾向にある。</li></ul>
「授業の振り返りシート」	・「授業のポイント・ねらいは自分にとってわかりやすいか」では、82.2%が肯定的にとらえている。また、「授業の進度が自分に合っているか」では、「速い」が11.2%、「ちょうどいい」が80.9%、「遅い」が9.7%であり、1～3学年の中で最もばらつきがある。
「授業ワークシート」 「鑑賞レポート」 「美術館レポート」	・鑑賞経験の少なさは窺えるが、鑑賞のポイントや画家についての解説に感心を寄せ、熱心にメモを取ることができた。また、鑑賞レポートの課題後は、見学してきたものについて互いに報告し合う姿が見られた。鑑賞に対する抵抗はなく、素直に感じ取れる力をもっている。

#### 3 児童・生徒の学力・学習状況等の課題

- ・用具の基本的な使い方の基礎が身に付いていないことで作業が遅れてしまう生徒が多いため、基礎基本となる知識と技術の定着が課題である。
- ・鑑賞の機会を増やすとともに、素直に感じ取るだけでなく、色や形、光、画家の感情といった視点をもって作品を鑑賞することができるようになることが課題である。

#### 4 授業改善策

改善の観点	具体的な改善策
<基礎・基本の定着>	・導入の時間を長く設定し、筆洗の使い方や定規の使い方など基本的な事項について全体指導することを今後も継続して行うことで、全体の基礎・基本の定着を目指す。
<教材の工夫>	・技法の学習の際、その技法が使われている作品を例として見せるなど、鑑賞の要素を取り入れることで、鑑賞の機会を増やすとともに視点を絞った見方についても学ばせていく。

## 平成27年度 授業改善推進プラン

### 【学年 2 年生】【教科 美術】【授業者 小林】

#### 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

- ・基礎学力の確かな定着と知識、技能を確実に習得し、思考力・判断力・表現力の育成を中心に、学力の向上を図る。
- ・ねらいを明確にした分かりやすい授業、学ぶ楽しさや分かる喜びをもたせる授業を目指す。

#### 2 児童・生徒の現状

##### ◆資料を活用した分析

活用した資料名	分析結果
「作品及び制作過程」	・新たに学ぶ技法についての感心が高く、特に一点透視図法の課題では、自宅に持ち帰り細部に拘って作品を制作した生徒が多くみられた。手順や技法などが決まっている制作に関しては、地道に完成させていく喜びを感じながら、取り組んでいる。 ・制作過程や方法が複数、または自ら考える課題では、制作の手が止まってしまう傾向にある。
「授業の振り返りシート」 「授業ワークシート」	・「授業のポイント・ねらいは自分にとってわかりやすいか」では、88.8%の生徒が肯定的にとらえている。また、「授業に使われる教材（ワークシートなど）は学習に役立っているか」では、90.8%の生徒が肯定的にとらえている。全体に授業に対する意欲が高く、話をしっかり聞けること、話をもとにワークシートへのメモがしっかりと行えている生徒が多い為であると思われる。
「鑑賞カルタ」 「鑑賞レポート」	・これまでの鑑賞の授業や鑑賞カルタ、レポートを通し、1年時に比べ知っている作品が増えてきた。それに伴い、これまでは写実的な作品を選びレポートにしていた生徒が多かったのに対し、個々の生徒の嗜好に合ったものとなり、多様化してきた。

#### 3 児童・生徒の学力・学習状況等の課題

- ・制作過程や方法が複数、または自ら考える課題では、失敗を恐れる気持ちから制作の手が止まってしまうことが課題である。
- ・自らの嗜好に合ったものを選ぶことにより、全体では作品が多様化してきたものの、個人では同じ画家や系統の作品に触れる機会が多いことが課題である。

#### 4 授業改善策

改善の観点	具体的な改善策
<課題設定の工夫> <学習の共有化>	・1時間の中で複数の作品が制作できる短時間制作の課題に取り組みせ、失敗しても次に挑戦できる場を設定し、多くの失敗を経て作品を完成させたことへの満足感を与えることで、失敗を恐れる気持ちを克服させていく。 ・これまで、掲示し見合う形式であったため、嗜好に合ったものを中心に見ていた鑑賞レポートについて、班で発表し合う時間をとり、色々な作品や画家に触れる機会を作り、学習を生徒間で共有させる。

## 平成27年度 授業改善推進プラン

### 【学年 3 年生】【教科 美術】【授業者 小林】

#### 1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

- ・基礎学力の確かな定着と知識、技能を確実に習得し、思考力・判断力・表現力の育成を中心に、学力の向上を図る。
- ・ねらいを明確にした分かりやすい授業、学ぶ楽しさや分かる喜びをもたせる授業を目指す。

#### 2 児童・生徒の現状

##### ◆資料を活用した分析

活用した資料名	分析結果
「作品及び制作過程」	<ul style="list-style-type: none"><li>・こだわりをもって難しいデザインにチャレンジし、地道な制作活動ができる生徒がいる反面、簡単であることや早く完成することを考えデザインを選ぶ生徒もおり、学年の中で課題に対する意欲の差が大きい。</li><li>・3学年になり表現の幅が広がったことで、学年の中で多様な作品が提出されるようになった。</li></ul>
「授業の振り返りシート」	・「授業のポイント・ねらいは自分にとってわかりやすいか」では、76.9%が肯定的にとらえているのに対し、23.1%が否定的にとらえている。また、「授業の進度が自分に合っているか」では、「ちょうどいい」が69.2%「速い」が26.0%、であり、同程度となっている。授業のポイントやねらいが理解できていない生徒は、何をしたいか分からず制作の手が止まってしまうがちであること、作業が遅れている生徒は、ねらいの確認時期と実際の作業時期とのズレが生じてしまうことが原因であると思われる。
「鑑賞レポート」	・制作同様、作者や作品について細かく調べ、技法や色使い、作者の思いなどを感じ取り、自分なりの視点でまとめられる生徒がいる反面、いつも同じ内容を提出する生徒おり、学年の中で取り組みの差が大きい。

#### 3 児童・生徒の学力・学習状況等の課題

- ・学年の中で取り組みに対する差が大きいので、全体のねらいだけでなく、個々の生徒に対するねらいも明確にし、目標に向けて制作活動を行えるようにすることが課題である。
- ・表現の幅が広がったことで、個々により取り組み内容が異なるため、一斉指導ではなく個別に対応していく必要性が増えたことが課題である。

#### 4 授業改善策

改善の観点	具体的な改善策
<評価基準の明確化>	・单元ごとの評価の規準とポイントについて単元の導入で明示し、個々に制作の目標を自ら設定させ、目標に向かって取り組ませる。時間に余裕をもって目標を達成した生徒については、1つ上の目標を新たに設定し取り組ませる。
<個への対応>	・授業の最後に行っている自己評価カードを用いて、個々の進捗状況や躓き、構想を確認し、個の生徒に合わせた準備や授業時のアドバイスをっていく。